

## 友達作り、学級作りで活用する

(小学校第1学年)

### 【活用した資料】

- 小学校版「心あかるく」 p.16～p.17 第一章 「ともだちと てをつないで…」谷川 俊太郎
- 小学校版「心あかるく」 p.94～p.95 第三章 「⑦ 友だちと なかよく しよう」

### 【学習指導要領に示されている道徳の内容】

- 2-(3)「友達と仲よくし、助け合う。」

#### ○ 子供たちの人間関係作りのきっかけとして。

入学して間もない児童に、仲のよい人間関係を築いていくきっかけを与える場面として、「心あかるく」第一章 p.16～p.17「ともだちと てをつないで…」を活用しました。

入学して間もない児童にとって、一緒に遊んで楽しい時間を共有できる友達や、励まして不安な気持ちを取り去ってくれる友達は、とても大きな存在です。小学校生活をスタートさせた児童が楽しい学校生活を送れるよう、友達作りを支援するのは、教師の大切な役割の一つです。

この時期はまだ文字の学習をしていないので、「心あかるく」p.16～p.17の挿絵を見せ、手をつなぎ並んで夕焼けを見ている二人の男の子の気持ちを想像させました。「友達が一緒にいてくれて、うれしい気持ち。」「友達と仲よくできて、あたたかい気持ち。」といった声が挙がりました。

この言葉をきっかけとして、友達のよさにあらためて気づき、新たに友達をつくったり、今一緒にいる友達とこれまで以上に仲よくしてりしていこうという気持ちをもつことができていました。

#### ○ 教室に大きな「なかよしの木」を作って掲示し、継続的な取組として…。

友達と仲よくし、助け合っていこうとする気持ちを継続的に育てていくために、教室に大きな「なかよしの木」の幹と枝を作りました。そして、「心あかるく」p.94～p.95「友だちと なかよく しよう」の書き込みシートを色紙の葉っぱに印刷したものを用意し、「友だちといっしょにいて、元気が出たこと」を書き込んで、「なかよしの木」の枝に貼っていくようにしました。一枚一枚葉っぱが増えていく中で、お互いの優しさや思いやりを認め合える、温かい学級作りができました。

